平成30年度決算における健全化判断比率及び資金不足比率について

1 平成30年度決算における健全化判断比率の状況

(単位:%)

	実質赤字比率	連結実質 赤字比率	実 質 公債費比率	将来負担比率
平成30年度 (A)	-	ı	9. 5	6. 6
平成29年度 (B)	_	_	9. 1	17. 9
増減 (A)-(B)	_		0.4	▲ 11.3
早期健全化基準	15. 0	20.0	25. 0	350.0
財政再生基準	20.0	30.0	35. 0	

2 平成30年度決算における資金不足比率の状況

(単位・%)

		(半江・/0)
	簡易水道事業特別会計	公共下水道事業特別会計
平成30年度 (A)	ı	-
平成29年度 (B)	I	
増減 (A)-(B)	_	_
経営健全化基準	20.	. 0

3 健全化判断比率の推移

(単位:%)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
実質赤字比率		_		_
連結実質赤字比率	_	_	_	_
実質公債費比率	7. 4	8.3	9. 1	9. 5
将来負担比率	28. 5	18. 1	17. 9	6. 6

(単位:千円)

標	準財政規模	2, 163, 444	2, 113, 195	2, 045, 560	2, 023, 984
	うち臨時財政対策債	102, 126	76, 525	76, 377	73, 618

◎ 用語の解説

- 実質赤字比率
 - 一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率(実質黒字の場合は指標なし)
- 連結実質赤字比率

全ての会計を対象とした実質赤字及び資金不足額の合計から実質黒字及び資金剰余の合計を 控除した額の標準財政規模に対する比率(実質黒字の場合は指標なし)

- 実質公債費比率
 - 一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率
- 将来負担比率
 - 一般会計が将来負担する実質的な負債の標準財政規模に対する比率
- 資金不足比率

公営企業ごと資金の不足額の事業の規模に対する比率(黒字、資金剰余の場合は指標なし)

• 標準財政規模

普通交付税の算定の仕組みを通じて計算される、地方公共団体が標準的な状態で収入できるであろう経常一般財源

(標準税収入) + (地方譲与税等) + (普通交付税) + (臨時財政対策債)

4 実質赤字比率及び連結実質赤字比率の推移

(7) 連結実質赤字比率 (6) / (4)

(単位:千円)

区分		実	質収支額/資	金不足・剰余	額	摘要
	<u></u>	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	100女
(1)	一般会計	104, 595	90, 374	38, 754	6, 176	
(2)	特別会計	16, 834	18, 940	226	3,610	
	① 国民健康保険事業特別会計	0	12, 967	0	3, 443	
	② 後期高齢者医療特別会計	210	151	226	167	
	③ 介護保険サービス事業特別会計	16, 624	5, 822	0	0	
(3)	公営企業会計	0	0	0	0	
	① 簡易水道事業特別会計	0	0	0	0	
	② 下水道事業特別会計	0	0	0	0	
					(単位:	千円)
	区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	摘要
(4)	標準財政規模	2, 163, 444	2, 113, 195	2, 045, 560	2, 023, 984	
	うち臨時財政対策債	102, 126	76, 525	76, 377	73, 618	
					(単位	: %)
(5)	実質赤字比率	_	_	_	_	
(5)	(1) / (4)	▲ 4.83	▲ 4. 27	▲ 1.89	▲ 0.30	
(6)	連結実質収支額 (1)+(2)+(3)	121, 429	109, 314	38, 980	9, 786	

▲ 5. 61 実質赤字収支又は連結実質赤字が黒字の場合、「実質赤字比率(%)」又は「連結実質赤字比率 (%) | は指標なし

▲ 5. 17

▲ 1.90

※ 実質赤字収支又は連結実質赤字が黒字の場合、「実質赤字比率(%)」又は「連結実質赤字比率 (%)」を負の値で参考表示

一般会計等の実質赤字額 (1) 実質赤字額比率 標準財政規模 (4) 【 早期健全化基準 15% / 財政再生基準 20% 】

連結実質赤字額 (6) 連結実質赤字比率 標準財政規模 (4) 【 早期健全化基準 20% / 財政再生基準 30% 】

5 実質公債費比率の推移

(単位:千円)

	区分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	摘要
(1)	地方債の元利償還金	433, 294	435, 827	439, 541	401, 745	
(2)	準元利償還金	159, 726	165, 037	166, 529	176, 173	
	① 公営企業の地方債償還に充て られる繰入金	135, 382	140, 646	142, 235	150, 184	
	② 一部事務組合等の地方債償還 に充てられる負担金	24, 344	24, 304	24, 294	25, 989	
	③ 公債費に準ずる債務負担行為	0	0	0	0	
	④ 一時借入金利子	0	87	0	0	
(3)	元利償還金又は準元利償還金に充 てられる特定財源	21, 756	18, 237	30, 156	28, 552	
	① 公営住宅使用料	8, 391	5, 073	16, 873	16, 245	
	② 都市計画税	13, 365	13, 164	13, 283	12, 307	
	③ その他	0	0	0	0	
(4)	基準財政需要額に算入された元利 償還金・準元利償還金の額	429, 719	423, 362	412, 486	398, 742	
	① 元利償還金分	337, 225	337, 809	326, 200	311, 678	
	② 準元利償還金分	92, 494	85, 553	86, 286	87, 064	
(5)	標準財政規模	2, 163, 444	2, 113, 195	2, 045, 560	2, 023, 984	
	うち臨時財政対策債	102, 126	76, 525	76, 377	73, 618	
					(単位	: %)
(6)	実質公債費比率 (単年度)	8. 2	9. 4	10.0	9. 3	
(7)	実質公債費比率 (3カ年平均)	7. 4	8. 3	9. 1	9. 5	

実質公債費比率 = $\frac{[(1)+(2)]-[(3)+(4)]}{(5)-(4)}$

【 早期健全化基準 25% / 財政再生基準 35% 】

6 将来負担比率の推移

(単位:千円)

		区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	摘要
(1)	将来	負担額	6, 552, 276	6, 342, 407	6, 316, 792	5, 936, 540	
	1	地方債の現在高	4, 046, 421	3, 989, 646	4, 062, 235	3, 839, 061	
	2	債務負担行為に基づく支出予 定額	0	0	0	0	
	3	公営企業債等繰入見込額	1, 902, 102	1, 807, 660	1, 706, 236	1,600,232	
	4	一部事務組合等負担等見込額	138, 670	116, 312	93, 487	68, 461	
	(5)	退職手当負担見込額	465, 083	428, 789	454, 834	428, 786	
(2)	充当	可能財源等	6, 057, 817	6, 036, 342	6, 023, 481	5, 827, 754	
	1	充当可能基金	1, 654, 119	1, 792, 869	1, 812, 939	1, 811, 629	
	2	充当可能特定財源	368, 326	341, 603	430, 055	441, 740	
		うち都市計画税	260, 009	209, 434	186, 271	161, 791	
	3	基準財政需要額算入見込額	4, 035, 372	3, 901, 870	3, 780, 487	3, 574, 385	
(3)	標準	財政規模	2, 163, 444	2, 113, 195	2, 045, 560	2, 023, 984	
	うち	臨時財政対策債	102, 126	76, 525	76, 377	73, 618	
(4)		財政需要額に算入された元利 金・準元利償還金の額	429, 719	423, 362	412, 486	398, 742	
						(単位	: %)
(5)	将来	負担比率	28. 5	18. 1	17. 9	6. 6	

(1) - (2)将来負担比率 = (3) - (4)

【 早期健全化基準 350% / 財政再生基準 なし 】

7 資金不足比率の推移

□ 簡易水道事業(法非適用企業)

	区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	摘要
(1)	繰上充用金	0	0	0	0	
(2)	支払繰延金・事業繰越額	0	0	0	0	
(3)	建設事業以外の地方債残高	0	0	0	0	
(4)	解消可能資金不足額	0	0	0	0	
(5)	資金の不足額 [(1)+(2)+(3)]-(4)	0	0	0	0	
(6)	営業収益に相当する収入	108, 548	106, 752	104, 607	101, 588	
	① 水道料金	103, 393	101, 134	98, 918	97, 153	
	② 受託工事収益に相当する収入	4, 038	4, 312	4, 293	3, 740	
	③ その他営業収益に相当する収入	1, 117	1, 306	1, 396	695	
(7)	受託工事収益に相当する収入	4, 038	4, 312	4, 293	3, 740	
(8)	事業の規模 (6) - (7)	104, 510	102, 440	100, 314	97, 848	

(単位:千円)

(単位:千円)

(0) 資金不足比率	_	_	_	_	
(9) 貝並不足比率 (5) / (8)	0. 00	0.00	0. 00	0. 00	

[※] 資金不足額が負の値の場合「資金不足なし=資金剰余」で、「資金不足比率(%)」は指標なし

[※] 資金不足なしの場合、「資金不足比率(%)」を負の値で参考表示

答 全 不 兄 比 恋	_		資金の不	足額	(5)
資金不足比率	走比举 = 		事業の規	模	(8)
	[経営健全化基準	20%]	

□ 公共下水道事業 (法非適用企業)

	区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	摘要
(1)	繰上充用金	0	0	0	0	
(2)	支払繰延金・事業繰越額	0	0	0	0	
(3)	建設事業以外の地方債残高	0	0	0	0	
(4)	解消可能資金不足額	0	0	0	0	
(5)	資金の不足額 [(1)+(2)+(3)]-(4)	0	0	0	0	
(6)	営業収益に相当する収入	29, 559	29, 994	30, 285	30, 243	
	① 下水道使用料	29, 507	29, 921	30, 204	30, 201	
	② 受託工事収益に相当する収入	0	0	0	0	
	③ その他営業収益に相当する収入	52	73	81	42	
(7)	受託工事収益に相当する収入	0	0	0	0	
(8)	事業の規模 (6) - (7)	29, 559	29, 994	30, 285	30, 243	
					(単位	: %)
(9)	資金不足比率	_	_	_	_	

(5) / (8)	0. 00	0.00	0. 00	0. 00	
資金不足比率 =		資金の不足	額 (5)		
貝亚小足比學		事業の規模	(8)		

【 経営健全化基準 20% 】

【参考】管内の健全化判断比率

単位	:	千円	%)

区分	H29標準	実質赤	字比率	率 連結実質赤字比率		実質公債費比率		将来負担比率	
	財政規模	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29
小樽市	31, 798, 031	_	_	_	_	8. 3	7. 9	61. 7	48. 5
島牧村	1, 685, 461	_	_	_	1	4. 3	4. 6		_
寿都町	2, 063, 619	_	_	_	1	15. 3	13. 6	100. 1	78. 3
黒松内町	2, 375, 194	_	_	_	-	6. 9	7. 9	32. 9	48. 1
蘭越町	3, 398, 146	_	_	_	_	8. 5	9.8	_	_
ニセコ町	2, 740, 870	_	_	_	_	13. 0	12. 2	46. 2	41. 4
真狩村	1, 676, 246	_	_	_	_	9. 5	10. 3	50. 4	56. 0
留寿都村	1, 575, 377	_	_	_	_	6. 1	7. 0	43. 2	38. 3
喜茂別町	1, 793, 947	_	_	_		8. 9	9. 0	61. 9	69. 0
京極町	2, 720, 640	_	_	_	_	6.8	6. 9	_	_
倶知安町	4, 927, 942	_	_	_	_	7. 0	7. 3	71. 1	78. 1
共和町	3, 435, 635	_	_	_	_	7. 7	7. 8	_	_
岩内町	3, 954, 069	_	_	_	-	13. 1	14. 2	173. 9	168. 7
泊村	2, 469, 367	_	_	_		1. 2	0.8	_	_
神恵内村	949, 425	_	_	_	-	5. 4	4. 5	_	_
積丹町	1, 775, 989	_	_	_	_	10. 4	10. 2	74. 7	70. 8
古平町	2, 045, 560	_	_	_	_	8. 3	9. 1	18. 1	17. 9
仁木町	2, 145, 660	_	_	_		9. 9	9. 4	_	0. 7
余市町	5, 732, 801	_	_	_	1	10.8	10. 3	86. 2	81. 0
赤井川村	1, 352, 658	_	_	_	1	4. 4	5. 0	_	_



